

くさん人を増やしていこうかではなくて、幸せに人口を減らしていくこと。今ある仕組みを見直しながら、今ある仕組みは成長していくことを前提としていますので、そういうものを見直しながら、人口減少の中で生じる課題をいかに乗り越えていくか。そのためには仲間が必要です。地域の中で。あるいは移住者として。あるいは移住してこなくても関わり続ける仲間が必要だということから取組を始めました。それまでは、地域に人を呼び込むというのはふたつしかなかったんです。観光と移住です。観光交流人口、移住者が増えることを定住人口が増えると表現しますが、観光は1泊。移住は一生というわけです。でも実際に移住を増やそうという取組をいろいろやってみると、このあいだにいろいろな関わりをする人が出てきたわけです。1泊と一生のあいだは当然ながらいろいろな関わりようがあると思うのですが、この人たちのことを去年くらいから、檜谷さんからもご紹介がありました。 「関係人口」と呼ぶようになりました。あえて言葉にすると、地域と継続的に関わりを持ってくれる人とも表現できましようか。観光が1泊なら定住人口はどういう関わり方なのかということ、私の感覚ですが、地域外から来てくれて地域の人が顔と名前を覚えていて、定期的に連絡を取り合う関係の人のこと。観光客で道の駅に物を買いに來る人の顔と名前はほとんど覚えていませんね。そこの違いがあるわけです。当然ながら、受け皿がそれぞれあります。観光の受け皿は観光案内所とよばれるものと旅館やホテルなどの観光産業があります。近年は移住の受け皿も充実してきました。移住案内所といわれるもので、役場の中にあったり、独立の拠点があったりしますが、空き家という受け皿もあるわけです。関係人口にもやはり受け皿は必要です。

上毛町でやっていることを4つだけご紹介します。まずは、お試し居住というのを作って行きました。都市部から1ヶ月間くらい住んでみるという仕組みです。専用の住宅はお金がないので作れません。地域の中の空き家を役場がまた貸するという形です。都市部から公募して来た方に1ヶ月500

円で貸しますよという仕組みで、今、全国的に増えています。ひとつだけ特徴を上げると、移住の相談に乗ってくれたり、滞在しているあいだ地域との人つなぎをしてくれる、移住者である地域おこし協力隊がいるというしかけになります。地域との交流があったり、楽しそうな様子を感じていただけるかと思えます。どんないいことがあるかということ、移住者が増えるわけではありません。都市部から来た人が自分のスキルを活かして地域の人とコラボして商品ができたりイベントをしたり活動が起こるといったことがひとつの特徴です。

ふたつめ。関係案内所を作ってみました。拠点を作るということですね。こんな拠点を持っています。築150年の民家を改装した場所です。ここには地域の方が訪れ、私自身がこの隣りに住んでいるので、回覧板を持ってきてくれたり、野菜をくれたりします。ここがまちの入口になって地域との橋渡しをしていきます。すごく大事にしているのは目的がなくても来れる場所でありたいといつも思っています。ふらっと来てボーっとしていたり何でもOKな場所。地域の外のファンを作っていくのかなと思っていて、まちの紹介もほとんどしません。こないまちなだから来てね、来てねといわれると、人間の心理として、あまのじゃくですから、あまりグイグイ来られるといやだなと思う人もいますので、町の紹介もせずに、逆に来た方の話をいろいろ聞くようにしています。移住を希望される方や地域に関わりたい方というのは今の都市部での暮らしにいろいろな疑問を持っていたりモヤモヤを抱えているので、そういう話を聞いて、時間を過ごす場所です。どんないいことがあるかということ、地元のおじさんたち、都市部から来る若い人たちと一緒にお酒を飲んで楽しいですし、中には、この左のおじさんは農家民泊をやっている、昔、離婚されて20年くらい独身だった還暦のおじさんなんです。お客さんと仲良くなって、去年の春、結婚されました。20歳年下の農家民泊のお客さんと結婚されました。そんな感じで出会いの場にもなったりするわけです。3つ目。イベントもします。ただし観光イベントではなくて、少人数で滞在型で、何か学びに来るような

取組を作っています。たとえばこの時は漆喰塗りをしました。地元の役場の方と、東京から来たライターの子と一緒に漆喰塗りをするわけです。するとだいたいこうなりますね。女の子は彼と結婚して、地元に残りました。

最後にひとつだけ、関係人口づくりといった時にはきっかけを作るイベントをやったり、拠点を作るきっかけを作ることが大事なのですが、それ以上にその後の連絡を取り続けることが非常に重要なと思っています。いわゆるダイレクトメールで送りつけるのではなくて、直接メールやメッセージのやり取りをしたり、また、手書きのはがきをもらうなどというのは都市部ではめったにないことなのでごく喜ばれたりします。来てくれた大学生におばあちゃんが達筆のはがきを送ったりということをしています。

関係人口というのは、増えていくことを目標とするととてもつらいんです。なぜなら継続的にずっとここから何年も、ひょっとしたら何十年も関係性を保ち続けるとなるとひとりの人が作れる関係性なんて、持てる友だちの数と同じなので、1,000人も友だちは持てないので、数十人単位です。地域の方がいろいろな方とつながっていくというイメージで、関係づくりをしています。



**檜谷**／はい、ありがとうございます。パネリストの皆さん、ありがとうございました。それぞれの地域みかきということを、それぞれにお話をいただきました。ここから先、皆さんの話を元に、関係人口というキーワードでひもときながら、ほかに地域みが

きというようなところもありますので、もう少し深入りしてお話を聞いたりというような時間にしたいと思います。今ちょうど11時10分くらいですので、あと30分くらいの時間かなと思います。よろしくお願ひします。それでは皆さんのほうで、お聞きになったと思いますが、もしご質問等があれば書いていただいて、スタッフの皆さんに回収していただく時間をとりたいと思います。意見等お持ちであれば書いてください。書いたよというのを意志表示していただければ回収して回ると思います。

それでは後半戦にいきたいと思います。

私のほうからご質問をもういちどさせてもらっていきたくて思っていますが、西塔さんの話が最後にありましたので、少し聞いてから地元の方にお話を聞きたいと思っていますが、都会での話を関係案内所で聞くのが大事というお話がありました、どんな話をするんですか？

**西塔**／仕事がつらすぎていつ辞めようかと思つているとか、満員電車で耐えきれないとか、田舎に暮らしてみたいと思うけれどもやっぱり自分ひとりで行くのは難しそうだなとか、そんな田舎暮らしに興味のある方によくある話です。聞き続けることで、アドバイスしないということを大事にして、「だったらこの家があるよ」とかすぐいわないことを大事にしています。

**檜谷**／何人で来られるのですか？ おひとりで来られるのですか？

**西塔**／ひとりで来られる方もいますし、パートナーと来られる方もいますし、家族連れで来られて、子供がわーっと遊びながら、両親が相談する方もいます。子育て相談する人もいます。

**檜谷**／ふらっと来られるのですか？ 予約制ですか？

**西塔**／予約制とはいっていないのですが、東京や大阪から来られるので、だいたい皆さん事前に予

約して来られます。1回来ると、短い人でも3時間から6時間滞在、長い人だと1週間くらい泊まっていけます。

**檜谷**／なるほど。そういったモヤモヤを持っていらっしゃる方が、道の駅とかで30分、1時間いるわけではなくて、もう少しゆっくりお話をしたり、過ごせる場所を地域につくったということですね。

**西塔**／そうですね。ひとつ、観光と関係人口の違いは滞在時間の長さとその頻度にあるかなんか思っていて、長く一緒に過ごせば過ごすほど関係性というのはいくつと、一方的に情報を受け取るよりも、自分が話し、承認され認められ、受け入れられる感覚があるほうが、外から来る人にとってすごく関係性が作れている感じがするのかなと感じます。

**檜谷**／ありがとうございます。寺本会長さん、教育旅行とかそういった話がありましたが、地域みながきという中では、ある資源を活用するという考え方は、おそらく、どの地域でもわかっていると思います。でも、自分のところのどのような資源が使えるのかわからない。そういった中で、寺本会長さんのところは、地域資源を使ってプログラムを作るといった時には、どういった手順で進めていけますか？

**寺本**／地域の特徴や自慢できるもの、例えば、川を活かしていきたいとか、それぞれの地域の方からアイデアを提案していただいて、それをプログラムにできるかどうか協議会で検討していきました。

**檜谷**／会議やワークショップをしたら、案はいっぱい出てくると思うのですが、それができるかできないか、そこがすごく大事だと思いますが、なぜできるかポイントがありますか？

**寺本**／この地域では、過疎の問題が、20年以上前

から始まっていたので、それぞれの地域で危機感を持ちながら、集落で観光案内所を作ってこんなものやってみようかとか、すでにそういった取組を行っていたので、地域に、問題意識や課題解決に取り組む土壌があったからだと思います。

**檜谷**／なるほど。すでに問題意識もあり、各集落で提供できるプログラムの種みたいなものがあり、それをうまく活かしながら、プログラム化、コンテンツ化して提供できるような形で引き揚げたりしているという捉え方でいいですかね。はい、ありがとうございます。

次に、舞田さんにおうかがいしたいのですが、小さな集落のネットワーク組織について、このような連絡協議会というのは、他の地域では、そんなに多くあるわけではないと思います。連絡協議会を作る前と作ったあとで、変わったことがありますか

**舞田**／連絡協議会から市にお願いをして、集落の調査をしていただくことができました。小さい集落に絞って、全戸を回っていただきました。この結果を踏まえて、どうしていくかというのはこれからですが、小さな集落では、行政が地道に動いてくれたこと自体が励みになっています。とにかく誇りを持って最後まで生きていく、最後の1軒になっても生きていく、地域をしっかり守っていくという思いを持てるようにすることが、この過疎の対策ということだろうと思います。

**檜谷**／やはり、小さな集落というのはどうしても高齢化が進んで人も減り、空き家が増えたりというようなことがあると思いますが、先ほどの「最後の1戸になるまで住み続けよう」という覚悟、そういったものは僕も地域づくりの中で現場に入って感じる集落というのがあります。なぜ、こんな戸数しかないのにこれだけ草刈りができているんだ？と。たとえばそういうことはありますね。そういった集落というのは、そこで暮らす意志みたいなものを感じます。

次に、梅川さんにお聞きしたいんです。

集落や地域の実態調査、アンケート調査から見えてきている問題や課題はありますか？

**梅川**／全国的に中山間地域は、水稻を中心とした農業ではないかと思います。その水稻を誰がやっているか、兼業農家です。兼業農家の方は、仕事に出られている。専業農家は、80歳90歳で農業をやられている方が中心です。定年退職して60代、70代の方も水稻しかやったことがないんです。だからほかのことがわからない。ほかの作物に転換できないかなんかといっても、どうやって作っていいかわからない、何をやっていいかわからない。という状況です。農業は、自分の代で終わり、この機械が壊れたら終わり、というような意見が多数です。そこを解決しないと、そのあたりの意識を改革しないとなかなか、それぞれの集落が生き延びていくのは難しいのではないかと思います。というところが今回のアンケート調査や現地巡回調査で見えてきたところです。

**檜谷**／先ほど地域住民の方々に、地域で考えてもらう、住民で考えてもらうというお話をいただきましたが、住民の方の反応はいかがですか？

**梅川**／なかなか難しいところもあります。今私どもが、ここの地域、たとえばAという集落で20ヘクタールくらいの農地があるけれども、3分の1くらい耕作放棄地になりつつあるというところがあります。先ほど言いましたように、水稻しかやったことがないものですから、自分たちでは何を作っていいかわからない。だから、難しいのです。だったらそういう専門のプロがいます。県の職員であるなり、市の職員であるなりですね。農協さんにもプロの職員がおりますので、そういう人たちに地域の状況を見ていただいて、ここでは、こんな作物が作れそうだね、それとか80代90代の現役でやられている方に聞くと「昔はこんなのを作って儲かった」ということがあるので、そういうものを作っていく、あるいは6次産業化を進めていくというようなプランニングを示す取組ができないかなということを考えて

ています。

**檜谷**／中山間地域、過疎集落というのは、山や農地や、そういったものと一緒に暮らしがある。農的な暮らしですね。そういったところがあるがゆえのいろいろなしんどさやいろいろな仕組みがあると思うのですが、これ、どうですか、西塔さんの地域や集落では、今みたいな地域で自分で考えましょう、もしくは何かやりましょう、未来に向けて何か取り組みましょうみたいな話はあったりするものですか？

**西塔**／もちろんです。それがあって地域の方が始められた農家民泊があり、協力隊を受け入れてもいいよという話があり、で私が来させていただいたという経緯があります。やはり起点となるのは地域の方なんですよね。関係人口の人がど真ん中のリーダーになることは当然ないですし、移住者がそうなることも難しいので。

**檜谷**／関係人口が真ん中ではなくて、あくまで住民が真ん中で、そこに外部人材が関わる、ひとつの手段として地域おこし協力隊として西塔さんは入られたということですね。

**西塔**／地域おこし協力隊もひとつの関係人口だと思うんです。いちばん度合いの高い、3年いるという関係人口。

**檜谷**／確かに、そこで暮らしたりしますからね。確かにそうですね。地域おこし協力隊は3年後にいてくればいいなと思われている存在なので、まだ定住を確実にしたというわけではないわけですね。そういった意味では、だいぶ期待される関係人口、みたいなこともあったかもしれませんが、それはプレッシャーだったですか？

**西塔**／私はあまりなかったですね。最初からすごくいい地域で、ここで住みたいなと思いつきながら来ているので。ただ、多くの地域おこし協力隊から聞くの

は、やっぱり協力隊で来たからにはずっと住み続けるよねと繰り返しいわれ続けるのがプレッシャーで仕方がない、それはいわないでほしい、3年かけて自分で住んでいけるかどうか考えるから、優しく見守ってほしいという。ですから関係人口として地域に関わる人に対して「移住してきなさいよ」と強く引っ張るのではなくて、ゆるやかな関わり方を許容してあげるといふある種の寛容さがすごく重要だなと思います。

**西塔**／先ほど話しそびれたことをひとつだけご紹介したいと思います。関係人口づくりというのは、新たに何か始める必要はあまりないのかなと思っていて、実際にもう地域の外から関わっている人は多少いらっしゃるはずなんですよね。それは行政の目的と照らした時にこれまで強化手法にならなかったのであまり積極的にアプローチしていなかった人たちに気付いてあげて声をかけてあげて何か応援してあげるといふ、彼らのやりたいこと、実践したいことを応援してあげるといふ形での関わりようはすごくいいなと思います。

**檜谷**／谷口会長さんにお聞きしたいのですが、山代神楽について、40代30代20代など、若い人たちが活動されている人がおられますか？

**谷口**／はい、若い人がいます。それぞれの組織には、10代から70代までの方がいまして、組織的には各保存会長が理事で頑張っているわけですが、そういう中では、若い人の意見を聞くことができないので、20代までの若い者の青年部の代表者を決めて、それぞれで会合を持たせて、そしてその意見を取り入れてやっています。

**檜谷**／先ほどの、後ろのかわいい鬼なども若いメンバーが考えられて作られたということですね。プラス、その若い人たちが地域外、外から通われているというようなお話もお聞きしたのですが、そのあたり、少しお話いただいていいですか？

**谷口**／山代神楽には、県外も含め都市部からこの地域に通ってきて、活動されている方も多くおられますが、やはり通っている人というのは、神楽に対しては、非常に自分のプライドを持っております。この連絡協議会を作ってから、やはりほかの保存会に負けたくない、だから練習に来る、そしてそれぞれ人前で披露したい。若い人たちだけではなくて、年寄り、ベテランが若い人に教えて、プログラムやポスターを作っております。そういう形で、若い人も年寄りもそれぞれの仕事を与えて、それぞれの責任感を持ってやるようにしております。

**檜谷**／ありがとうございます。その責任感を持ってやらせるようにしているということは、ある程度上の年代が下の年代へ、いわゆる次世代にバトンタッチして任せる、もしくは好きなようにやらせるというようなこともひとつの勇気がいると思うのですが、それはやはり谷口さんたちの年代でそういう気持ちがあって、任せてみたりやらせてみたり権限を委譲したりということができていると考えていいのですか？

**谷口**／そうですね。それはそういう形でやっております。また、保存会という形で、ほかから「あなたのところの保存会には昔こんな演目があったのではないか、それを再興したらどうか」というような形で、逆にそのために援助してやるとか、50年前にやっていたのを復活させるということがあります。特に広島は新舞が多いのですが、こちらは保存会なので旧舞というか昔から伝わっている地域の伝統芸能をとにかく、皆様の前で発表できるように練習する。そのためには1年に1回やっている大会で発表させるように、サイドからも応援する。それにはやはり若い人にとにかくやらせる。若い人の意見も聞きながら、年寄りには「昔はこうだったから」とやはり譲れないところがあり、一方で、若い者には疑問もあります。そこをいい具合に折り合って進めるという形でやっています。

**檜谷**／はい、ありがとうございます。そうした外か

ら1時間以上かけてでも神楽をしに通うというのはどうやら、先ほどお聞きしたら出身の保存会に入られるケースが多いということなので、実はそこには住んでいないのだけど神楽というものを通じて地元との関係を作り出しているというようなことですよ。ちなみに、神楽で保存会に入っているのだけど、神楽以外でもいろいろな関係性、神楽を演じられている方々というのは神楽だけなのか。それとも関係性として神楽をやっているうちにこんなことも手伝うようになったとか、こんなことにも関係するようになったとか、広がりが見えるようなことってありますか？

**谷口**／神楽以外でも、そういう人もいます。お手伝いしますよとか、逆にやっていてその地域でない人でも、私の子供に神楽を教えてほしいです、広島県の大竹市や廿日市市、見に来て教えてやってほしいという人もいます。実際そういう人も頑張っています。

**檜谷**／神楽を通じた、遠くにいるわけではない、都市部にいるわけではないけど、近くなんだけど関係人口としての関係性があるということですよ。

寺本さん、長年そういう活動をされたり子供の教育に携わっていると、10歳の子供が10年たてば20歳になるわけですが、長年継続することでの関係性の変化ですとかあったりするものですか？

**寺本**／まず、民泊については、UターンとかJターンで地域に入ってこられた方も、積極的に受け入れに協力してくれています。また、体験の提供にしても自然、川が好きでもともとカヌーをされる方が脱サラしてインストラクターで来られています。しかも、生徒の受け入れが多い時などは、近隣の仲間に声をかけてくれて、そうした方々にインストラクターとしてお手伝いいただいているとかはあります。知らないうちに関係人口というか、そうした方が仲間になってくれて、知らないあいだに支えられていることはございます。

**檜谷**／昔は参加者だった子供たちが大きくなって今度はスタッフ側に関係したりお手伝いしてくれるようになったりということはあるのですか？

**寺本**／まだないです。まだそこまで長い歴史はないものですから。

**檜谷**／僕の知っている地域でもそういうケースが最近起こり始めています。これはどういうことかという、子どもたちの自然体験や青少年の総合プランとかで自然体験活動などに長年取り組んでいる地域がございます。そうした地域では、活動に参加していた子どもたちが、大人になって都会に出て、また地域に戻ってきて、今度は指導者として活動しているという現象が起こっているようです。そうした意味で、継続ということと先ほどの関係ということはひとつではなく、その時にパッと決まらずずっとその関係ということではなくて、関係性が変わって来る、変化することがおそらくあるのだろうということなんですよ。関係人口というのは実はその関係が変化するものなのかもしれないということだろうと思います。

西塔さん、関係人口のところで、今から関係人口に取り組みたいという行政の皆さんって、実は日本中にいっぱいいると思うんですよ。今、関係人口ブームなので。そしたら西塔さんのところに、関係人口はどうやったらできるんですか。どうやったら関係人口、増やせるんですかってストレートに聞いてくる人、聞きたい人、いっぱいいると思うのですが、もしそういった質問を投げかけられたら、西塔さんとしてはどうお答えになりますか？

**西塔**／実際に去年、総務省の関係人口づくりモデル事業というのが出てきた時にいろいろ相談を受けたのですが、ひとことかというと、これだ!という的はないと言っています。一つひとつの地域に関係人口の作り方ややり方がないと、何を目指した関係人口づくりなのかという議論がすごく重要なところの話からいつもするということがひとつと、もうひとつは、関係人口は指標になりにくい取組な

のであまりやらないほうがいいですよ。やらないというのは、指標にしてしまうとそこにお金を投入したりとか、行政が行政側の都合での枠組みを作ってしまうことになるので取り組む人たちのモチベーションをさげかねないことがあるので、どちらかというところ邪魔をしないで遠くから見守るといった関わり方も関係人口を育てていく上で重要なのかなと思ったりもします。ガチでそれを作る取組をすることもありますが、選択肢として広いレギュレーション、幅で考えてみるということがひとつあるかなと思います。

**檜谷**／ありがとうございます。ちょうど5分前なので、今日のパネルディスカッションまとめに入らせていただきたいと思いますが、地域みがきの話から関係人口もしくは地域外の年代との関係性みたいな話にふれることもできました。

関係人口というのは、西塔さんがおっしゃいましたが、何人なんだとか、増えたとか減ったとか、国から事業を取りました、じゃあ何人から何人になったんだとか、そういったことを求められがちになってしまうのではないかと懸念を持っています。そうすると、要は行政の方々も含めて、当事者たちは「増えたよ」と言いたくなりますから。そうすると何でもかんでも関係人口にしてしまう。フェイスブックで「いいね」をした人たちはみんな関係人口になってしまう。ふるさと納税で買ってくれた人たちはみんな関係人口になってしまう。その考えももちろんありますが、本来であれば、顔と名前を覚えていて、定期的に連絡がとれる間柄が必要です。そういった関係性が成立していなければ、お互いが関係人口として持続していくことは難しいのではないかと、ということだと思います。関係人口の「口」を取ってしまって、「関係人」とか、もしくは「〇〇関係」。神楽の話だと、神楽関係ですよ。つまり、あなたと私は何関係なのですか、と。もしくはこの地域とあなたは何関係なのですか。ということが言語化できるような間柄で少し掘り下げて考えると、僕らが本当に求めたい関係人口というものと出合いやすくなるのではないかとというのがひとつ。そう

すると、関係人ですね、その人はどういう関係の人なのか。自分にとって、もしくは地域にとって。そういうことが整理できる。そうすると先ほどの農業関係人口みたいに、〇〇関係人口みたいな形で、ざくとした関係人口ではなくて、もう少し細分化した関係人口のあり方や見方が見えてくると思います。そうすると、数が多い少ないというよりはもしかしたらどれだけ深いのか、どれだけ強いのか、もしくはどれだけ太いのかといったことが僕たちにとっても気になり始めるし、お互いのやり取りの中でそれを確認しあうような間柄になってくるのではないかと。それを支援するほうというのは、自らが自分たちはこんなことをやっているよということアピールするのではなく、何か場を作ってあげてしっかり聞いてあげるといったようなこと。あと、地域づくりを地域の方々ややる時にお話するポイントなのですが、僕は支援する側だし、関係を作る側なので、場を作ること、それから視点を作ること、新たな視点を投げこむこと。それからできたこと、やったことに対して価値づけをしていくこと。できたかどうかというよりは、そのことを通じてどういう価値が生まれたか、どういうことがわかったか、どういうことを学んだかといったことを価値づけしていくことが必要なかなと思っています。こうしたところが指標になってきたり、KPIになりにくいとはいいいながら確認するようなものになってくると、すごくいいかなと思いました。ですので、有無や増減ではなくて、関係性とその関係から何を生んでいくのか。自分たちは何を生もうとしているのかという意味や志みたいなものを持っているからこそ、先ほどの関係人という人たちとうまくマッチングされてつながっていくということがあるのだらうと思っています。

また、家族との関係性ももういちど見直していいのではないですか？ 集落に住んでいないけど、息子は車で30分のところに住んでいる。そういった血縁関係というものもありますよね。その血縁関係の間柄というものも、関係人としてとらえた場合に、お互いにどういうやりとりがあるのか、身の回りの関係性というものも整理したり確認したり強くしていったりということも必要なのではないかと思

ます。

それから、これは地域づくりの中だけではなく教育の課題なのですが、僕らは地域も成長する、では成長とは何だということを少しお話します。コンフォートゾーン、Cゾーンという概念が教育の中にあるのですが、自分がこのままでよくて、快適で心地いい。人はそのゾーンから抜け出すと一気に不安になるのです。たとえば皆さんが、新しい仕事をするというと急に不安になったりするじゃないですか。ですので、そういった不安があるようなゾーンに入っていくと安全でなかったり、明日どうなるかわからないとか結果が保証されなかったりとかなるのですが、こういったCゾーンというものを広げる作業についても、実はきっかけを作り、地域づくりの活動をすることで広がっていく。つまりできなかったことができるようになっていくわけです。受け入れられなかったことが受け入れられるようになるとか、そういうようなことなのですが、実はこのきっかけを作る人というのも、地元の住民の高齢化でなかなかマンパワー的にも限界ということであれば、今みたいな関係している関係人口の間柄の人たちできっかけを作っていたりとか一緒に取り組んだりということもすごく住民自治力の向上という意味では大切なのではないかと考えています。

ですのでこれもひとつの案ですが、僕は行政の皆さんとお話する時にこんなのはどうですかと言います。昨日の全体会でお話がありました地域自治組織、運営組織、それから事業組織、そうしたものが地域の中で生まれつつあります。小さな拠点づくりをやったり、もしくは地域経済循環というもの意識して農産加工が始まったり、あるいは販売が始まったり6次産業が始まったりという話があります。合わせ技、多業、こうしたものが事業組織を通じて外貨を稼ぐということがあります。しかし、この方たちに対して、たとえば財源、活動費みたいなものを考えた時に、どうですか？ たとえばふるさと納税も最近はクラウドファンディングみたいなやり方がありますよね。そういったふるさと納税を通じてこの地域を応援したい、この地域のこのプロ

ジェクトを応援したい、もしくは地域運営組織を応援したい、チェック入れるだけで市町を通じてその地域にその金額が入っていく。これは寄付する側の意思表示としてチェックを入れているものですから、その地域に事業費としてお渡しするというやり方もあるのではないかと考えています。そういったことを通じて、交付金やふるさと納税の仕組みを整備したり、返礼品という形でお返ししたりというお話をしながら、関係案内所というのをしっかり作りながら、関係人口というもののやりとりをしていくというようなことも必要なのではないかと考えています。昨日からお話を聞きながら感じているところがあります。

今日はテーマは「地域みがきが人を呼ぶ ～関係人口を増やす～」ということで、これからの地域みがきのあり方、問題、これから、また関係人口という新しいキーワードに対して、僕らはどういうふうに考えていけばいいのかというような、ひとつのヒントみたいなものが皆さんと共有できたらいいなと思っていました。もし皆さんの心の中にそういったものが残れば、コーディネーターとして役割ができたのかなと思っております。最後に、パネリストの皆さんに、今日たくさんお話いただきましたので、盛大な拍手をいただきまして締めたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

以上でパネルディスカッションを終わりたいと思います。ありがとうございました。



# 岩国市現地視察

FAM'S キッチンいわくに



錦帯橋

